

# 2017年度 日本頭蓋顎顔面外科学会

## 専門医認定試験

(お願い)

座席の指定はありません。

前方から順に着席してください。

試験時間	14:00	～	14:30
------	-------	---	-------

1. 下顎枝骨折について正しいのはどれか

- a) 開口障害は生じない
- b) 咬合異常は認められない
- c) 耳下腺管の断裂を高率に伴う
- d) 下顎歯列弓の不整は認めない
- e) CT検査なしでは、診断は困難である

## 2. 正しい組み合わせはどれか

- a) Le Fort I型骨折      horizontal fracture
- b) Le Fort II型骨折      sagittal fracture
- c) Le Fort III型骨折      pyramidal fracture
- d) Guerin型骨折      naso-ethmoidal fracture
- e) Knight and North II型骨折      cranio-facial disjunction

3. 上顎骨と接していない骨はどれか

- a) 鼻骨
- b) 篩骨
- c) 頬骨
- d) 前頭骨
- e) 側頭骨

4. Le Fort II, III型骨折で誤っているのはどれか

- a) 鼻出血
- b) 咬合の異常
- c) Floating maxilla
- d) 眼窩内の骨折線
- e) 嗅覚異常

5. 顔面骨骨折に関して正しいものはどれか

- a) 下顎骨骨折が最も頻度の高い顔面骨骨折である
- b) 下顎骨骨折では介達骨折を起こすことは稀である
- c) Le Fort I型骨折では通常、鼻骨および篩骨部の骨折を伴う
- d) Pure typeの眼窩吹き抜け骨折は頬骨骨折を伴う
- e) 小児の下顎骨関節突起骨折は保存的治療を原則とする

6. Le Fort I型骨切り術に関する記述で誤りを選べ

- a) 翼突上顎結合を温存する
- b) 上顎歯根を温存する
- c) 眼窩下神経を温存する
- d) 下行口蓋動脈を温存する
- e) 鼻涙管を温存する

7. 顔面への骨および軟骨移植について正しいものはどれか

- a) 顎裂部移植には腸骨皮質骨が多く用いられる
- b) 眼窩底骨折には軟骨移植が良く、腸骨移植は適さない
- c) 鞍鼻変形には腸骨海綿骨移植が多く用いられる
- d) 唇裂鼻変形には鼻中隔軟骨移植が多く用いられる
- e) 肋軟骨移植は術後の彎曲変形が少ない

8. Apert症候群について誤りはどれか

- a) 症候性頭蓋縫合早期癒合症である
- b) 下顎の低形成を呈する
- c) 眼球突出を呈する
- d) 眼窩解離を呈する
- e) 合指症を呈する

9. 口唇口蓋裂の発生で誤りはどれか。

- a) 東洋人に最も多く発生する
- b) 日本人では約5,000人に1人生まれる
- c) 口唇系組織は胎生期の3-7週頃に形成される
- d) 一次口蓋の完全裂では裂は切歯孔にまでおよんでいる
- e) 口唇裂の発生には組織癒合不全説と中胚葉塊欠損説が主である

## 10. 頭頸部癌切除後の再建に関して適切な記述はどれか

- a) 可動部舌半切では、腹直筋皮弁などの容量のある皮弁を選択し術後機能を維持する
- b) 舌亜全摘術の再建において、喉頭挙上術は必須である
- c) 下咽頭喉頭全摘出術後に遊離空腸を移植する際、口側粘膜吻合は端側が適している
- d) 遊離皮弁移植時の頸部吻合血管（静脈）の第一選択は、外頸静脈である。
- e) 頭頸部癌の術後合併症率は、再建の有無に関わらず文献的に20-40%と高い